

鹿児島玉龍中高一貫教育校での 「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

〔開催概要〕

日時:平成25年11月25日(月)15:30~16:45

場所:鹿児島玉龍中高一貫教育校

※平成25年度 第5回目

平成25年12月

鹿児島市 市民協働課

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時:平成25年11月25日(月)15:30~16:45
場所:鹿児島玉龍中高一貫教育校

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
1	中学2年 女子	① 先日、今年の桜島の爆発的噴火が800回を超えたという新聞記事を目にした。桜島は私たちの誇りでもあるが、毎日のように悩まされる火山灰への対応と、火山灰の活用方法について伺いたい。	① 桜島は、爆発回数が昨日現在で807回になるなど活動が著しく活発で、県内各地に降灰の被害をもたらしています。京都大学の火山研究所によりますと、大正大噴火の9割の量のマグマがたまっているということで、防災対策をしっかりと進めていかなければならないと思っています。また、降灰の影響がないように、生活に支障がないようにしていかなければならないと思っています。 本市には道路上の降灰を除去するロードスイーパーが市と民間を合わせて94台あり、灰が堆積したところを除去しております。また、家庭で堆積した灰を収集場所へ持ってきていただいておりますが、それを市で収集しておりますし、その灰を入れる袋も各家庭に配布しております。町内会や商店街が自前で降灰除去機を購入する際は補助をしております。また、降灰は農作物にも被害を与えておりますので、灰を被らないようビニールハウスを設置しております。水道局では貯水をするところの上屋を設置したり、市内の小・中・高校には、降灰で学校の授業に影響が出ないように、クーラーを設置したりプールの灰を除去する機械を設置したりして、降灰対策を進めております。 降灰をどのようにして活用するかということについては、なかなか活用策が見つからないのが現状です。以前は、雪を溶かすために北海道へ灰を売却してはどうかという話もありましたが、輸送料が高くなるということで実現しなかったようです。また、シラスを使った陶器やガラスを作っておりますが、これが鹿児島の特産品となって売り出すことができれば良いと思います。	市民局 環境局 経済局 建設局 水道局 教育委員会	(市民局・環境局・建設局・水道局) 市長回答のとおり (経済局) 桜島特産の桜島小みかん・桜島大根のいずれも噴火に伴う火山灰土壌の中で育っています。 桜島の火山灰土壌はボラなどのレキを含み、水と空気をよく通します。 そうして、甘い桜島小みかんができます。 また、桜島大根が生長するには根が1mも伸びなくてははいけません。桜島の火山灰土壌の中で根がすくすくと伸び、大きな桜島大根ができるのです。 農家の皆さんは、火山灰をうまく活用して作物を育てています。 <火山灰を用いた特産品等> ・焼きもの:釉薬・粘土に火山灰を利用 市内:溶岩焼(桜島赤水町) その他県内に多数 ・魚(ブリなど)の灰干し :火山灰で包み天日に干さずに干物にする。 <シラスを用いた特産品等> ・シラスガラス:薩摩ガラス工芸(吉野町磯) ・シラスバルーン(研磨剤、壁材等で使用) :豊和直(東佐多町)ほか その他・釉薬・コンクリート骨材等の利用あり。 (教育委員会) 市内の小・中・高校には、降灰で学校の授業に影響が出ないように、クーラーやプールの灰を除去するろ過機を設置したり、プールクリーナーを配置したりして、降灰対策を進めております。

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時:平成25年11月25日(月)15:30~16:45
場所:鹿児島玉龍中高一貫教育校

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
2	高校2年 男子	② 桜島の大正大噴火から100年がたち、またいつ起きてもおかしくない。前回の噴火のときにはマグニチュード7クラスの地震や津波が発生したと聞いている。もし、この場で桜島の大噴火が起きた場合は、市長はどのような対応をとられるのか。現在運転を停止している川内原子力発電所との関係と併せて伺いたい。	② 昨日の午前中に、桜島火山爆発総合防災訓練を、桜島地区で実施しました。大噴火の前兆については、気象台をはじめとする国の機関や市の危機管理部で観測体制を整えて、しっかり把握しているところです。 大噴火が起きた場合は、すぐに津波が来るわけではないので、津波の来るまでの時間内に退避することが、最も重要な対策です。昨日は桜島で避難訓練をいたしましたが、今は高齢者の方が多いので、地域の皆さんと一緒に高年齢者を避難させるシステムをつくっていかねばならないと思います。災害の情報が入ったら、災害対策本部を設置して、市民の皆さんにお知らせしますので、まずは自分で自分の命を守ってほしいと思います。その後に地域の皆さんで連携して、助け合いながら危険のない地域に退避し、その後、自衛隊、気象庁、国、県、市など、我々行政が連携して防災対策をとっていくことになります。 川内原発については、万が一被害が発生した場合に影響のある地域では、原子力災害防災訓練を行い、地域防災計画を作って避難経路も位置づけています。また、多くの方に広報をするため「市民のひろば」で特集号を作り、このような災害が起きた場合にはこのような行動をとってください、こういった情報を共有してください、そして、このような対策をとってください、といったことを書いていますので、それに基づいた行動をとっていただきたいと思っています。	市民局	桜島火山爆発対策としては、島民の避難が安全に速やかに実施できるよう訓練を行うとともに、セーフコミュニティとして防災災害対策部門においても、高免町をモデル地区として現在桜島火山防災に取り組んでるところです。 川内原発の事故対策については、市長発言のとおり、災害発生時の注意点を記載した「市民のための防災ガイドかごしま」を作成し、市民のひろば12月号と一緒に配布しました。また、郡山地域の災害対策重点区域内の住民避難に関する計画も「鹿児島市原子力災害対策避難計画」として、11月に策定しております。
3	中学1年 男子	③ ドルフィンポート周辺に市電を走らせて観光に役立てようという計画は、今どうなっているのか。	③ 昨年、市電は運行100周年を迎えました。市電は、環境にやさしく、観光の目玉であり、定時性が保たれ、渋滞が起らないなどのメリットがあります。環境や利便性を考えて、ドルフィンポート周辺に、観光路線として、路線の延長を考えています。しかし、現在県では、色々な対策を立てながらドルフィンポートを変えることを検討されていますので、その検討状況を見据えながら、どういった路線延長をしたらよいか、今後検討をしていかなければならないと思っています。ドルフィンポートが今のまま残るという前提でルートを検討していましたが、県で、ドルフィンポートを残すのか残さないのか、撤去した後はどうするのかを、時間をかけて検討するということですので、その後に、路面電車の延長は考えざるを得ないという状況になっています。市民の皆さんにお約束した事業ですので、実現に向けてしっかりと取り組んでいければと考えています。	企画財政局	※市長回答のとおり

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時:平成25年11月25日(月)15:30~16:45
場所:鹿児島玉龍中高一貫教育校

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
4	高校1年 男子	④ 新幹線が全線開業して、多くの観光客が鹿児島へ来るようになった。 1度来た人にもう1度来てもらうため、または1度も来たことない人に鹿児島へ来てもらうため、今後、鹿児島市はどのようなことに取り組んでいくのか。	④ 平成23年3月12日に九州新幹線が全線開業し、その効果で統計をとって以来最も多くの方々が鹿児島市を訪れ、開業効果はまちづくりの大きな視点となりました。多くの方が訪れることでまちがにぎやかになって活性化され、ホテルに泊まったり物を買っていただいたりすると経済が潤ってきますので、多くの方々に鹿児島に来てもらう取り組みを進めていかなくてはなりません。鹿児島市では、これまで歴史、文化、温泉、桜島を含めた錦江湾の雄大な自然、食材などの鹿児島の魅力を情報発信しており、情報を知った人に鹿児島へ来ていただいたと思います。その後何度も来てもらうリピーターを増やすことも大きな課題です。 そのような中で、鹿児島市では第二次観光未来戦略を策定し、新たな魅力をつくっていかうと考えています。桜島フェリーをクルーズ船として活用したり、よりみちクルーズを1日1便就航したりして、鹿児島の新たな魅力になったと思います。また、鹿児島市街地の観光地を回るシティビューというバスが走っていますが、桜島にもアイランドビューという周遊バスを走らせています。地域の皆さんに協力していただいて、それぞれの地域で新たな魅力を発掘していただく取り組みもしております。 また、これからは交流人口を増やし、いろいろなところに鹿児島の魅力をいかに発信していくかが勝負になるかと思えます。先日は、札幌市と観光と文化の交流の協定を結びました。北海道は、明治維新以降薩摩の人が開拓をし、発展をしていった土地で、歴史的に深いつながりのある土地です。鹿児島の魅力を発信し、多くの人に来てもらって交流を増やそうということで、都市交流にも力を入れております。 新しい鹿児島の魅力を作り出すということと、その魅力を情報発信して多くの都市から鹿児島に来ていただくという手立てをすることで、新幹線効果と同じくらいの効果があるのではと思っています。	企画財政局 市民局 経済局 船舶局	(企画財政局、経済局、船舶局) 市長回答のとおり (市民局) 本市では、地域の住民が主体で設置・運営する「地域まちづくりワークショップ」の活動を支援しており、新たな地域資源の発掘等による地域の活性化を図るなど、市民主体の協働によるまちづくりを推進しております。

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時:平成25年11月25日(月)15:30~16:45
場所:鹿児島玉龍中高一貫教育校

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
5	中学1年 女子	⑤ 私の卒業した小学校は、6年生の時は2クラスしかなく、現在も児童数が減ってきているようである。自分の卒業した学校が小さくなっていったさびしく感じているが、どのようにしたら、少ない人数でも楽しく学校生活が送れるだろうか。	⑤ 私が小学校に入学したときは1学年に12クラスありましたが、現在はだんだん人数が少なくなっています。少子化ということで、なかなか子どもの人数が増えていきません。そういった状況を踏まえて、子どもを産んで鹿児島市で育てていただき、鹿児島市の学校に通って、学業を修めたら鹿児島市で就職していただくことで、また子どもを増やしていこうということを念頭に置いて、少子化対策として、いろいろな事業を考えております。鹿児島市で子育てをして、いい環境の中で社会生活が送れるよう、鹿児島市の子育て支援対策の事業を進めることで、少しでも仲間が増えればと思っています。いい仲間がたくさん増えていけば、鹿児島市の将来にもつながっていくと思えますし、明るい展望も見えてくると思います。できるだけ皆さんの仲間が増え、また、皆さんの後輩が増えて、人数の多い学校で楽しく学校生活が送れるような対策を進めていきます。	健康福祉局 教育委員会	(健康福祉局) 市長回答のとおり (教育委員会) 全国的に児童数が減少してきていますが、本市でも、一部の学校を除き同様の傾向が見られます。それに対し、市立の小規模校においては、少人数ならではの取り組みを行っています。まず、一人一人に応じた指導を充実させ、分かりやすい授業を展開しています。また、複数学年での合同学習や縦割りによる清掃・委員会活動を行ったり、遠足や修学旅行などの行事を小規模校同士で行ったりして、学年間・学校間で交流を深めています。さらに、一人一役による、全員参加型の学習発表会や地域と一体となった運動会など、少人数ならではの行事もあり、楽しく充実した学校生活を送っています。今後も、学校経営に工夫を加え、地域に根ざした教育活動の充実にも努めていきます。
6	高校2年 男子	⑥ 高齢化社会は高齢者へのサービスが充実しているということなので良いことだと思うし、高齢者の方々が元気で生き生き過ごせる社会が理想だと思う。鹿児島市の人口減少を少なくするよう、全国の人が一生鹿児島市に住みたいと思うような取り組みはできないか。	⑥ 現在、高齢化率が高くなってきており、高齢者が地域で生きがいを持って健やかに過ごすことが、鹿児島市政にとっての大きな課題であると思っています。65歳以上を高齢者と位置づけておりますが、今、65歳の方々は非常に元気で、社会でも役割を担って活動されていらっしゃいます。そのような方が、自分の知識と経験を皆さん方に伝えたり、一緒になって活動できるような環境づくりをしていくことで、自分の家から外に出て、年齢差を超えた交流をして長生きしていくことにつながると思います。鹿児島市では、今年から、高齢者の方々が高齢者を援助することでポイントを付与する制度を実施しております。そのような事業を進めながら、できるだけ元気な方はそうでない方をフォローし、町内会など地域の活動にも積極的に参加していただけるような環境づくりを進めていくことで、高齢者の生きがいづくりができるのではと思っています。	健康福祉局	※市長回答のとおり

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時:平成25年11月25日(月)15:30~16:45
場所:鹿児島玉龍中高一貫教育校

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
7	高校2年 男子	⑦ 市長の考える、10年後の鹿児島市像とは、どのようなものか。	⑦ 鹿児島市は、平成24年度に10年後のまちづくりの指針を決める「第五次鹿児島市総合計画」を作りました。その都市像は「人・まち・みどり みんなで創る“豊かさ”実感都市」であり、市民の皆さんが、人の豊かさ、都市の豊かさ、自然の豊かさを感じながら幸せに市民生活を送れるまちづくりをしていきたいという理念の下で計画を策定しております。その総合計画の中に6つの柱を立てて、それを中心にいろいろな事業を進めております。その中で最も大きな柱は「協働」で、行政だけが考えて実行するのではなく、市民の皆さんや事業者の皆さんも、みんなで一緒に考えて共に実行していこうものです。教育、環境、観光、子育てのことなどを、共に考え、行動することでいろいろな知恵や工夫が生まれ、皆さんが豊かさを感じるようなまちづくりができるのではと思っています。この10年後の指針に基づいて、毎年計画を立てて、それに基づいた事業を推進しております。	企画財政局	※市長回答のとおり
8	中学2年 男子	⑧ 今度消費税が8%に増税されるが、増えた3%のうち、2%は国の収入となり、その分は公共事業には使わないと聞いたことがある。 鹿児島市では、消費税の増税分は、どのように使われるのか。	⑧ 来年の4月から、消費税が8%になります。鹿児島市にも地方消費税というものが入ってきますが、試算したところによると、25億円くらい入ってくることになると思います。国はそれを社会保障関係の事業の財源にしますが、一方では地方の活性化にも使いなさいとも言っています。しかし、歳入が増える一方、歳出は約14億円増えると思われまます。また、都市が行う事業はその都市の税収でまかなわなければなりません、それぞれの地方が同じようなレベルで発展をしていけるように、お金が集まらない都市には、国が地方交付税を出しています。歳入と歳出の差を国が補てんしてくれる制度ですので、今後歳入が多くなる場合は、地方交付税が減らされる可能性があります。ですので、歳入は25億円、歳出は14億円増えるというお話をしましたが、地方交付税の今後の動向を見ないと、消費税増税によって鹿児島市にどのような影響が出るかは把握できないところではあります。 消費税が増税されることによって、市民の皆さんには生活上大きな負担になると思いますので、負担にならないように、それぞれの自治体が市民の皆さんに寄与できるような対応をしていかなければならないと思います。国もそのような方針で、いろいろな手当てをしてくれているように思います。	企画財政局	平成26年4月から消費税率が8%となることで、地方消費税が多く入ってくることも予想されますが、一方で、自治体間の税収のバランスを調整するために国が交付する地方交付税が減額となることも懸念されています。 消費税率引き上げによる増収分の取扱いは、現時点で、国からは具体的な内容が示されていないところです。

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時:平成25年11月25日(月)15:30~16:45
場所:鹿児島玉龍中高一貫教育校

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
9	中学2年 女子	⑨ 市長は、中学生の時はどのような生徒だったか。	⑨ 玉龍とは違って男子校でしたが、私も中高一貫教育校で学びました。違う小学校を卒業した仲間と、勉強や部活動をしながら仲良く学校生活を送っていました。その時はありがたさは感じていませんでしたが、振り返ってみると、6年間いろいろな同級生と付き合っ、素晴らしい学校生活を送っていたと思います。 今でも同級生と年に3~4回の交流を持っていますし、先輩・後輩とも付き合いがありますので、6年間で人とのつながりができたと思います。	市民局	※市長回答のとおり
		⑩ 市長になってよかったと思うことや、市長としてやりがいを感じるののどのようなときかを教えてほしい。	⑩ 市長になってよかったと思うことは、いろいろな人と出会うことができることです。今日もこうして皆さんとお話することができますし、全く違う分野の人と会うこともできます。今まで自分の知り得ていなかったいろいろなことを取り入れることができ、そのことが自分にとっての財産になっていると思います。 このような立場になりますと、市民の皆さんが幸せを感じ、豊かさを感じ、生きがいを持って生活ができるように進めていかなくてはいいませんが、環境の変化や時代の変化があったり、自然災害があったり、その時々で事象が変わっていきます。変化にとんだ事柄にその時々で判断をしていくということは、大きな職責を全うするという点で苦労もありますが、市長としての魅力も感じています。	市民局	※市長回答のとおり

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時:平成25年11月25日(月)15:30~16:45
場所:鹿児島玉龍中高一貫教育校

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
10	高校2年 男子	⑪ 市長が人をまとめる立場として大切なことは、どのようなことだと思われるか。	⑪ いろいろな事案があって、1つのものにまとめるのは大変なことです。いろいろな考えを持つ人がいて、1つの決断をするのに賛成の人もいれば反対の人もいます。しっかりと情報を集め、その事案に対してどのような課題があるか、それを進めることによってどのような障害が出てくるか、そのことを市民の皆さんがどういう受け取り方をするか、ということを考えて、また、1人で考えても前に進みませんので、職員、民間の方々、学識を持った方々のご意見を聞きながら、最終的には市長として判断をしなければなりません。情報を共有するためには、人との交流が大切だと思います。人をまとめるということは、いろいろな方々のご意見を聞いて、取捨選択をし、これが一番いいという最終的な政治判断を、市長自ら、市民の皆さんからその責任を持たされていますので、しなければなりません。そういう意味では大変さもありますが、いろいろな方々からの知恵をいただきながら、判断をすることになります。	市民局	※市長回答のとおり
11	中学2年 男子	⑫ 市長として、今の中学生や高校生に求めることは何か。	⑫ 中学生、高校生は、一番多感な時期だと思います。勉強も部活動もすべてが身につけていきますし、いろいろなことを経験していろいろな知識を入れて、それがその後の人生において大きな宝になります。そのような意味で、勉強もしっかりしていかなくてはいけません。部活動や地域の活動などを介して多くの人と接して、いろいろなことを吸収してほしいと思います。10年後、20年後には、皆さんが鹿児島市をつくり、私達高齢者を支える立場になります。今が一番大切な時期になりますので、いろいろなことを学んで吸収してほしいと思いますし、果敢にいろいろなことに挑戦したり、参加してほしいと思います。	市民局	※市長回答のとおり